

世界が進むチカラになる。



経済調査

欧州景気概況(2025年1月)

2025年1月8日

調査部 副主任研究員

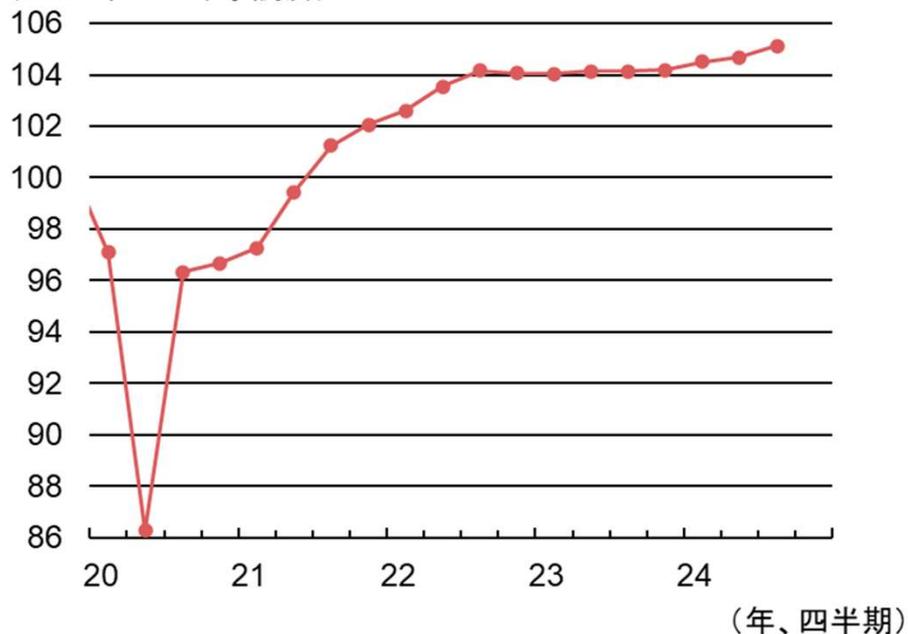
土田 陽介

ユーロ圏景気概況① 景気は拡大している

ユーロ圏の7-9月期の実質GDP(確定値)は前期比+0.4%と、4-6月期(同+0.2%)から増勢が加速した。スペインが堅調を維持し、フランスもパリ五輪効果で増勢を強めた。またドイツが同+0.1%と再びプラス成長に転じたが、イタリアはゼロ成長に失速した。一方、最新11月の景況感指数は95.8と前月(95.7)とほぼ変わらず。

実質GDP

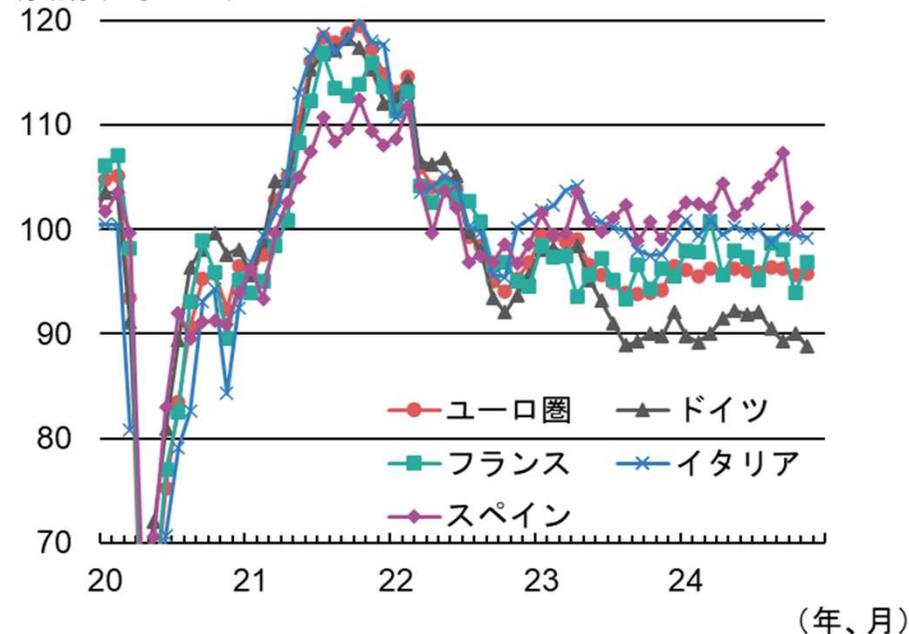
(2021年=100、季調済)



(出所) 欧州連合統計局(ユーロスタット)

景況感指数

(長期平均=100)

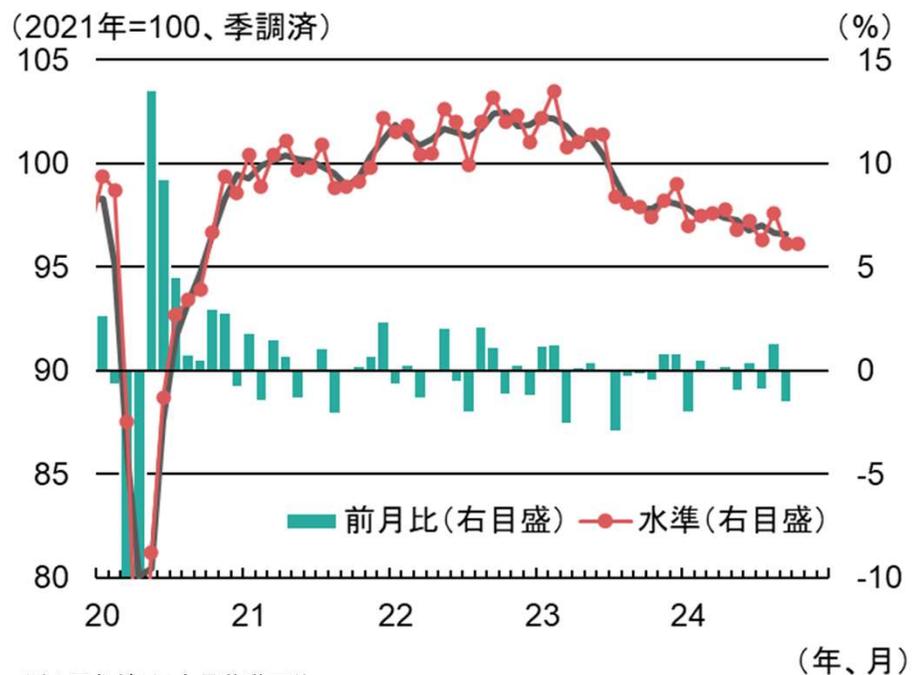


(出所) 欧州委員会ECFIN

ユーロ圏景気概況② 生産は減少している

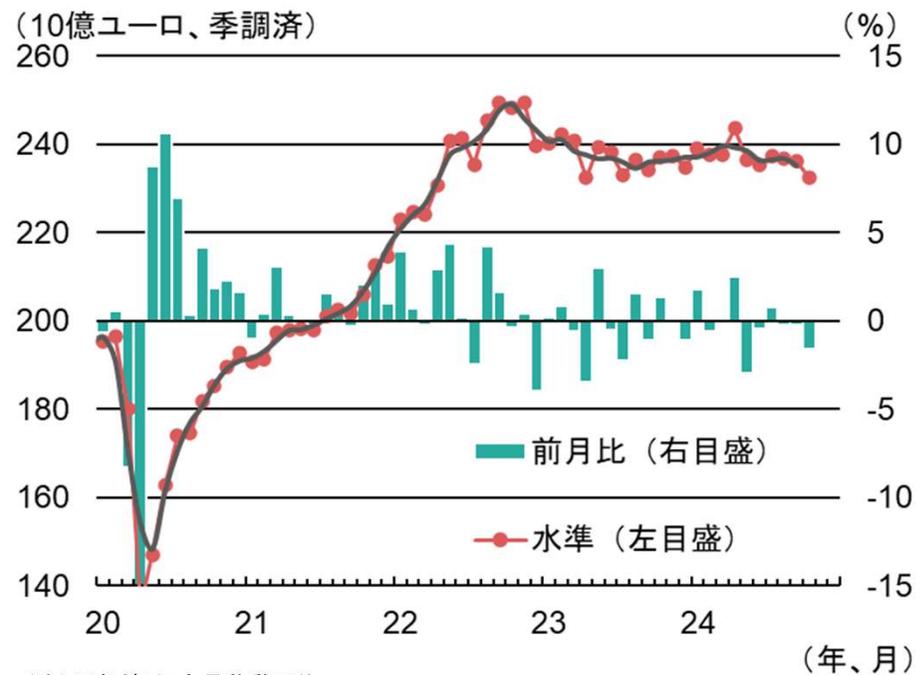
ユーロ圏の10月の鉱工業生産は前月比横ばいとなり、均した動きは下向き。一方で、同月の名目輸出は同▲1.6%と3カ月連続で減少し、均した動きは下向き。

鉱工業生産



(注) 灰色線は3カ月移動平均
(出所) ユーロスタット

名目輸出

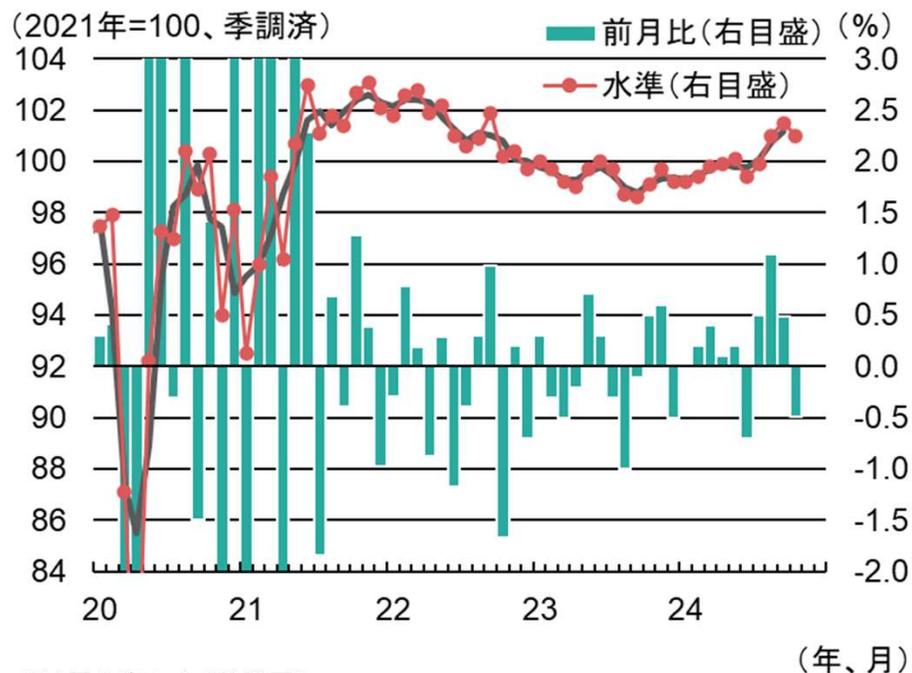


(注) 灰色線は3カ月移動平均
(出所) ユーロスタット

ユーロ圏景気概況③ 消費は回復している

ユーロ圏の10月の小売数量は前月比▲0.5%と減少したが、均した動きは上向き。一方で、9月の新車販売台数は前月比+3.1%の年率886万台となったものの、均した動きは下向き。

小売数量



(注) 灰色線は3カ月移動平均
(出所) ユーロスタット

新車販売台数

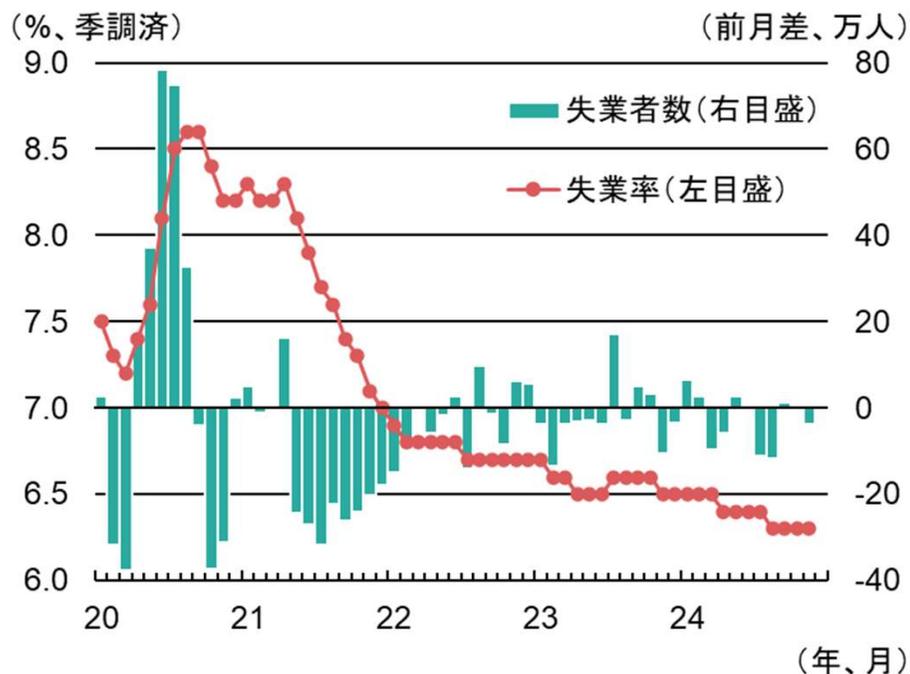


(注) 灰色線は3カ月移動平均
(出所) 欧州中央銀行 (ECB)

ユーロ圏景気概況④ 雇用は改善している

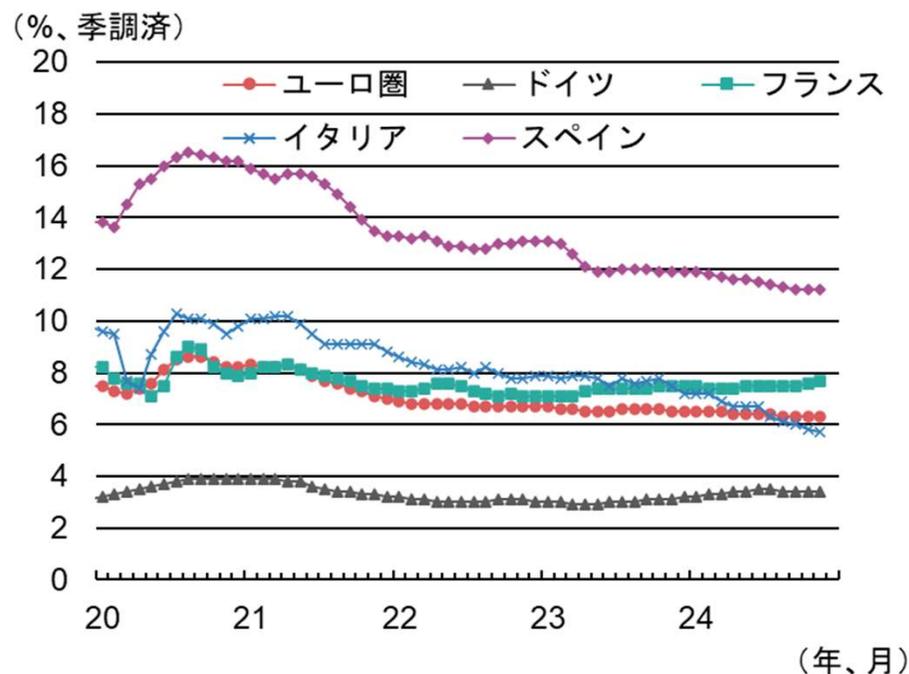
ユーロ圏の11月の失業率は6.3%と4カ月連続で同水準となった一方で、同月の失業者数が前月差3.9万人減と10月(同0.4万人減)からマイナス幅が拡大したため、雇用は改善していると判断される。主要国別に失業率を見ると、ドイツやフランスが緩やかな上昇トレンドである一方で、イタリアやスペインは緩やかな低下トレンドである。

失業率と失業者数



(出所)ユーロスタット

主要国別失業率

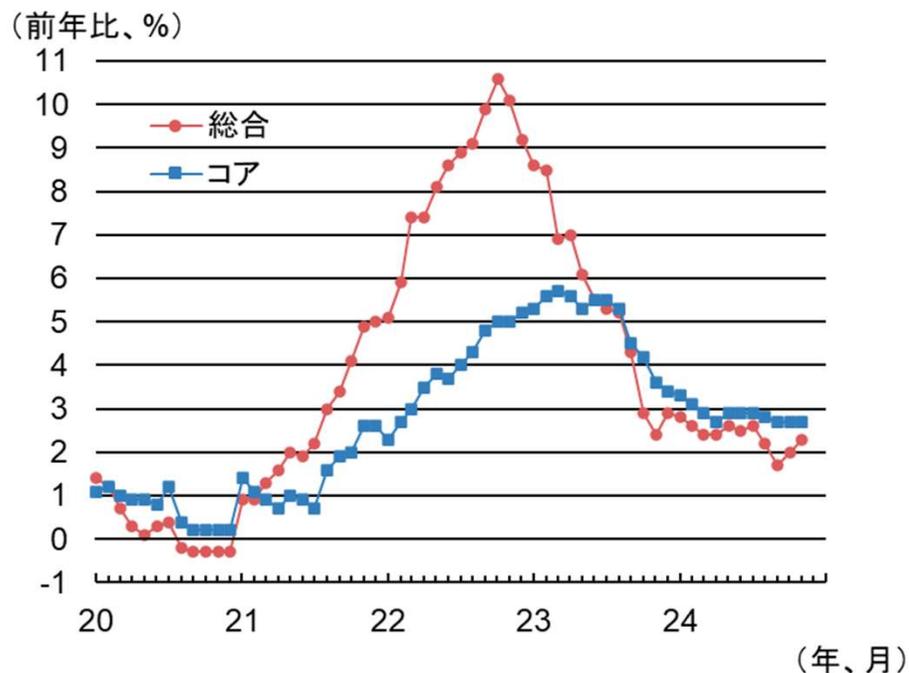


(出所)ユーロスタット

ユーロ圏景気概況⑤ インフレは安定している

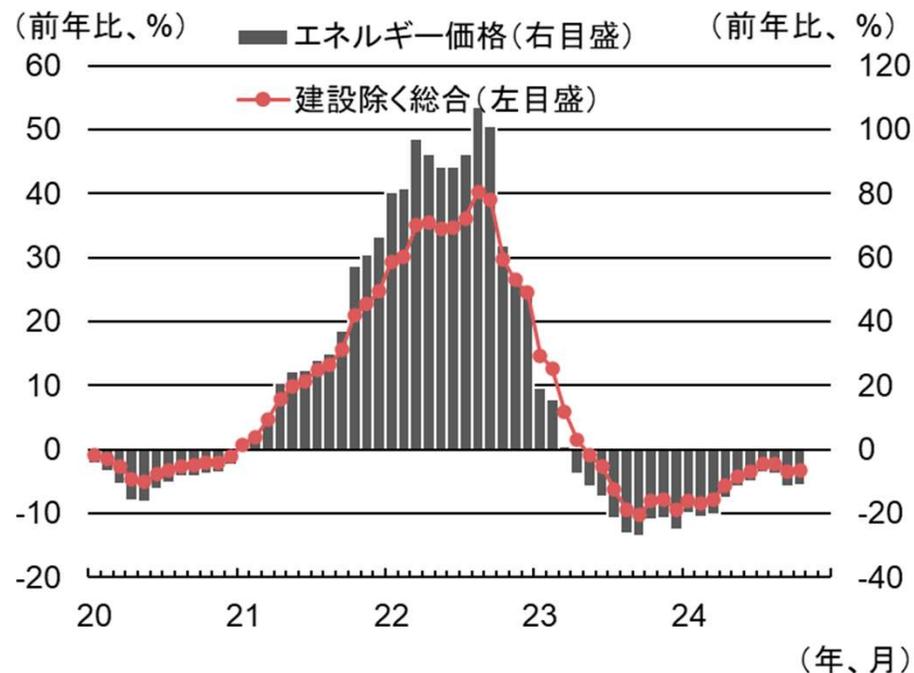
ユーロ圏の11月の消費者物価は総合ベースで前年比+2.3%と、2カ月連続で伸びが加速した。一方で、変動が激しい項目を除いたコアベースは同+2.7%と3カ月連続で同じ伸び率であったため、インフレは安定していると判断される。また生産者物価(建設除く総合)は10月時点で前年比▲3.2%と、17カ月連続で前年割れとなった。

消費者物価



(出所)ユーロスタット

生産者物価

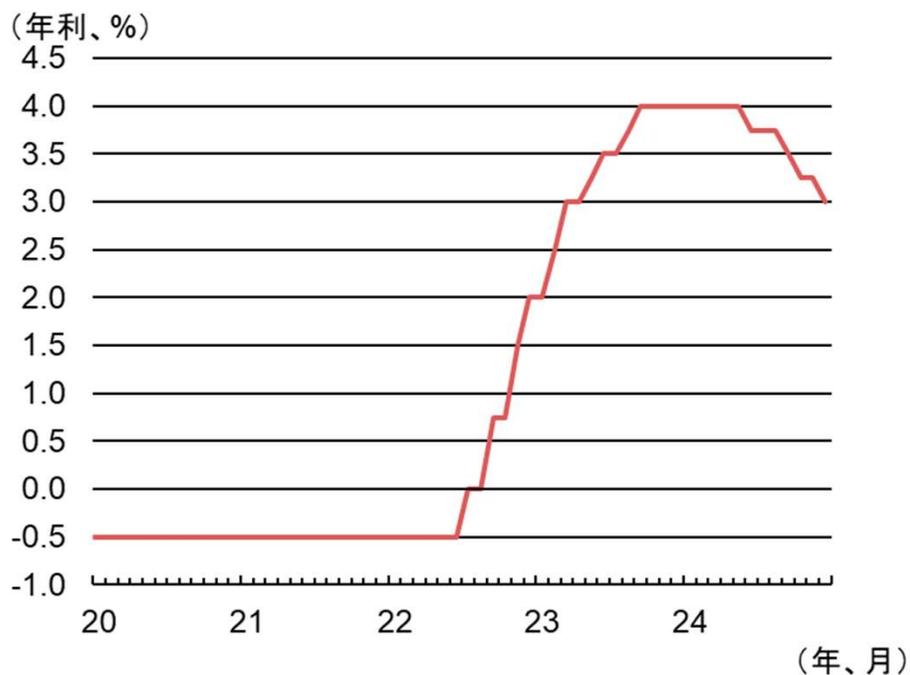


(出所)ユーロスタット

ユーロ圏景気概況⑥ ECBは12月理事会で追加利下げを実施

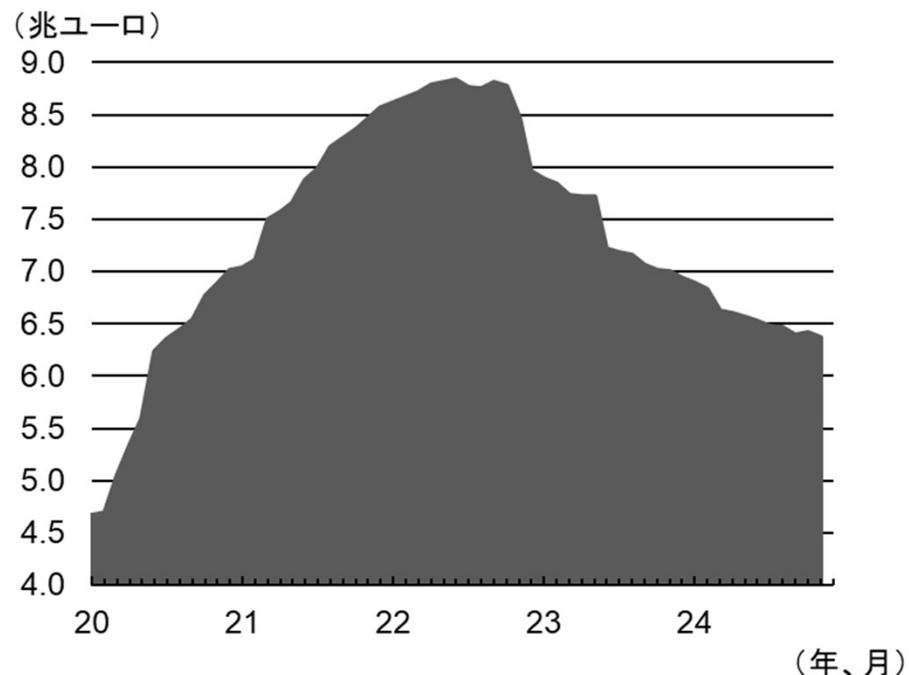
欧州中央銀行(ECB)は12月12日の理事会で、事実上の主要政策金利である預金ファシリティー金利を0.25%ポイント引き下げ、年3%とした。ECBは景気の停滞に対する警戒感を強めており、今年の理事会でも引き続き利下げを進めるものと予想される。次回の理事会は1月30日を予定。

政策金利(預金ファシリティー金利)



(出所)ECB

ユーロシステムのバランスシート

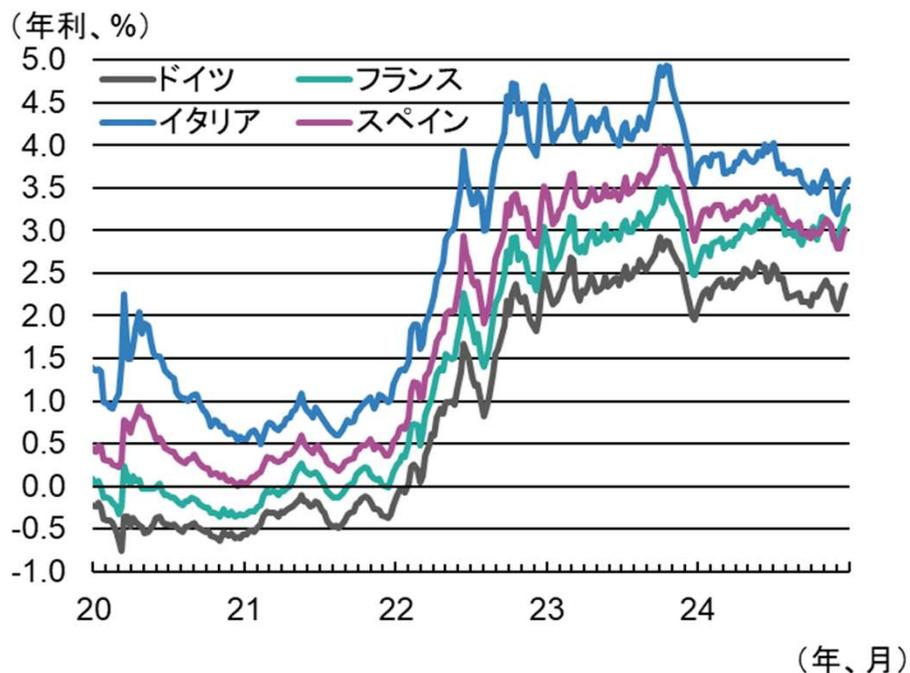


(出所)ECB

ユーロ圏景気概況⑦ 金利は上昇、株価は下落

12月のユーロ圏主要国の長期金利は上昇した。米金利上昇の流れがユーロ圏各国の長期金利を上昇させた。一方で、同月の株価は下落した。トランプ新大統領による経済政策への不透明感が相場を下押しした。

10年国債流通利回り



(出所)各国中銀

株価(Eurostoxx50)

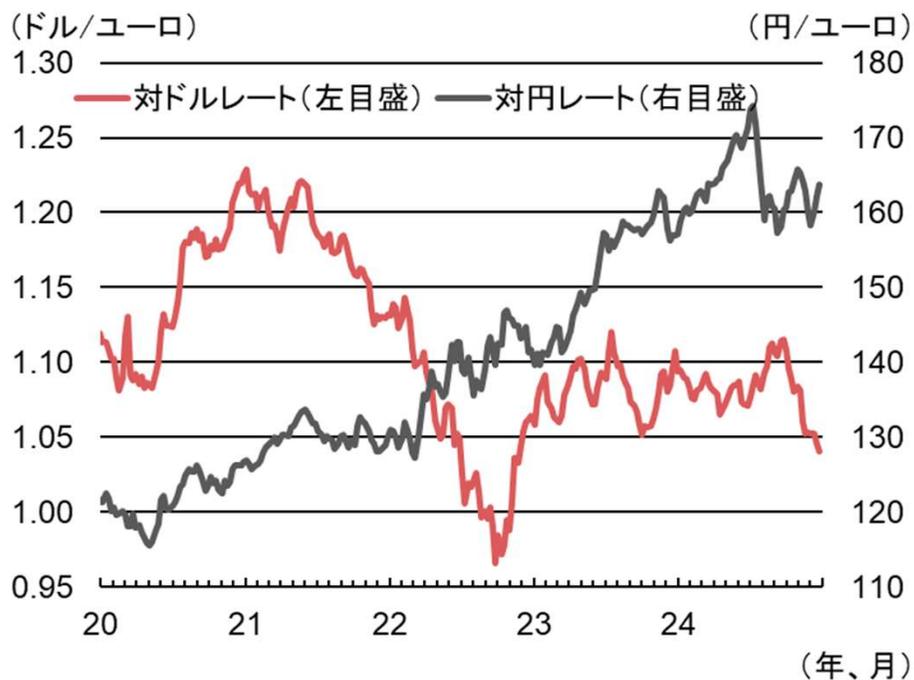


(出所)STOXX

ユーロ圏景気概況⑧ ユーロは対ドルで下落、対円で上昇

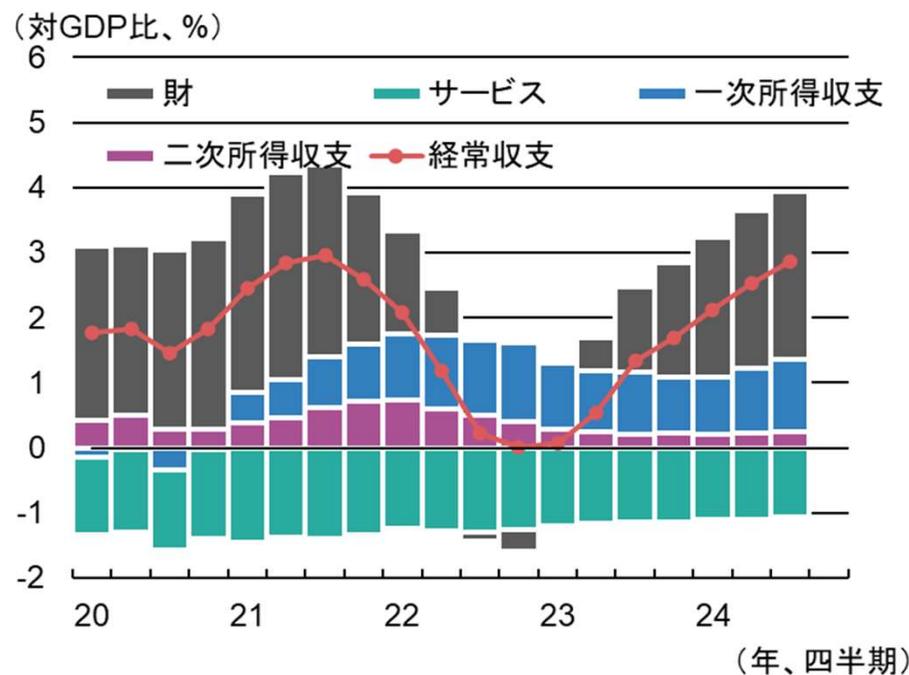
12月のユーロ相場は対ドルで下落、対円で上昇。対ドルでは、米国の追加利下げ観測の後退や通商政策に対する不透明感から、ユーロ安ドル高が進んだ。一方で対円では、日銀が追加利上げを見送ったためユーロ高円安となった。経常収支は財収支(貿易)黒字が拡大しており、実需面からのユーロ買い圧力が徐々に強まっている。

ユーロ相場



(出所) ECB

経常収支



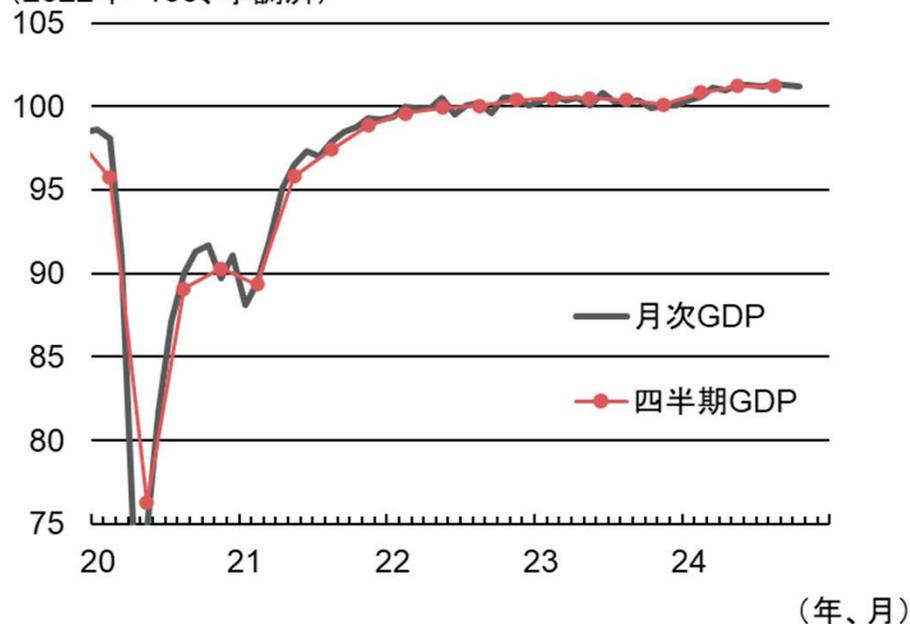
(出所) ECB、ユーロスタット

英国景気概況① 景気は足踏みしている

英国の7-9月期の実質GDP(確定値)は前期比横ばいと速報値(同+0.1%)から下方修正された。主要な需要項目別には、個人消費と総固定資本形成がプラスを維持した反面で、輸出のマイナスが続き、景気を下押しした。一方、10月の月次GDPは2カ月連続で前月比▲0.1%となった。

実質GDP

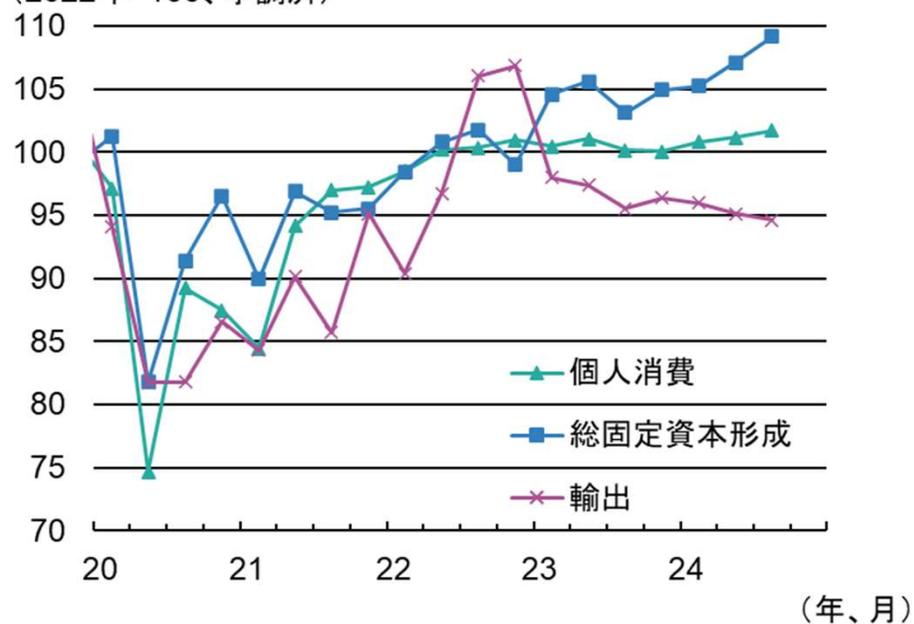
(2022年=100、季調済)



(出所)英国立統計局(ONS)

主要な需要項目

(2022年=100、季調済)

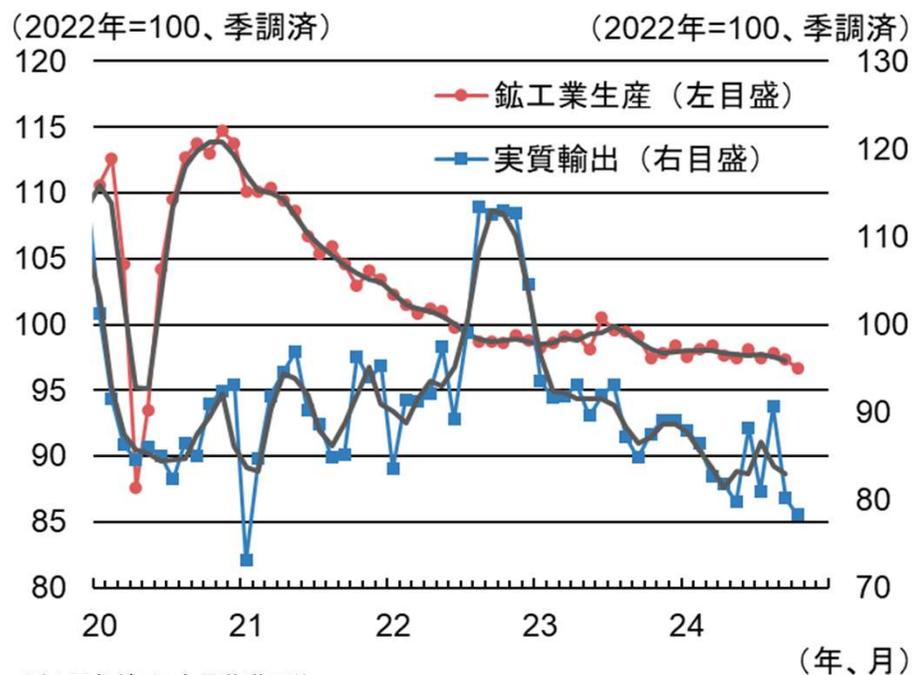


(出所)ONS

英国景気概況② 生産は減少している

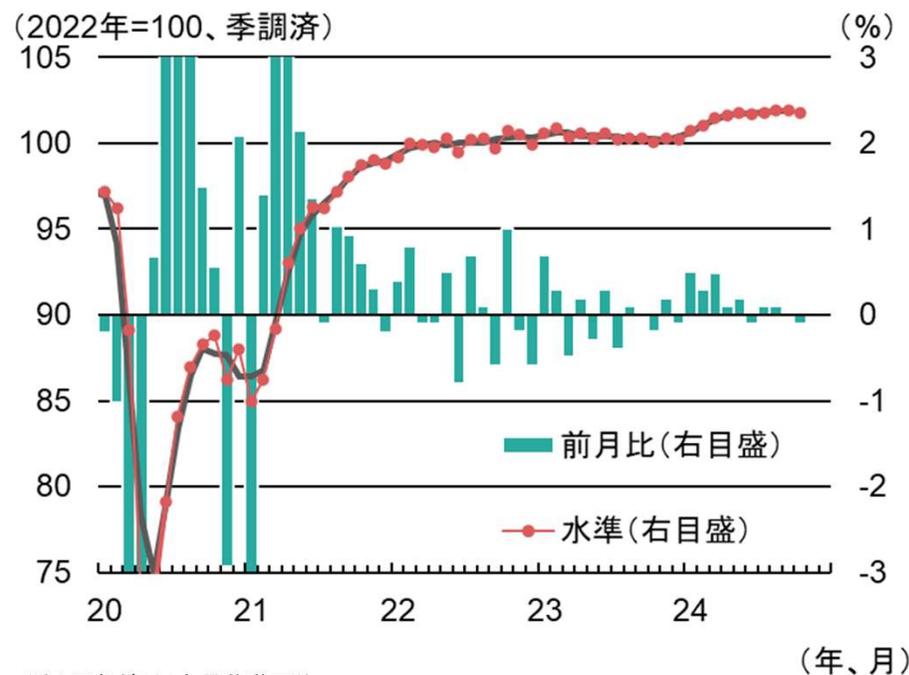
英国の10月の鉱工業生産は前月比▲0.6%と9月(同▲0.5%)から下げ幅を拡大させ、均した動きも下向きに。一方、同月の実質輸出は同▲2.3%と前月(同▲11.5%)から下げ幅を縮小させたが、均した動きは下向き。他方で、10月のサービス業生産は前月比▲0.1%となり、均した動きは横ばい。

製造業生産と実質輸出



(注) 灰色線は3カ月移動平均
(出所) ONS

サービス業生産

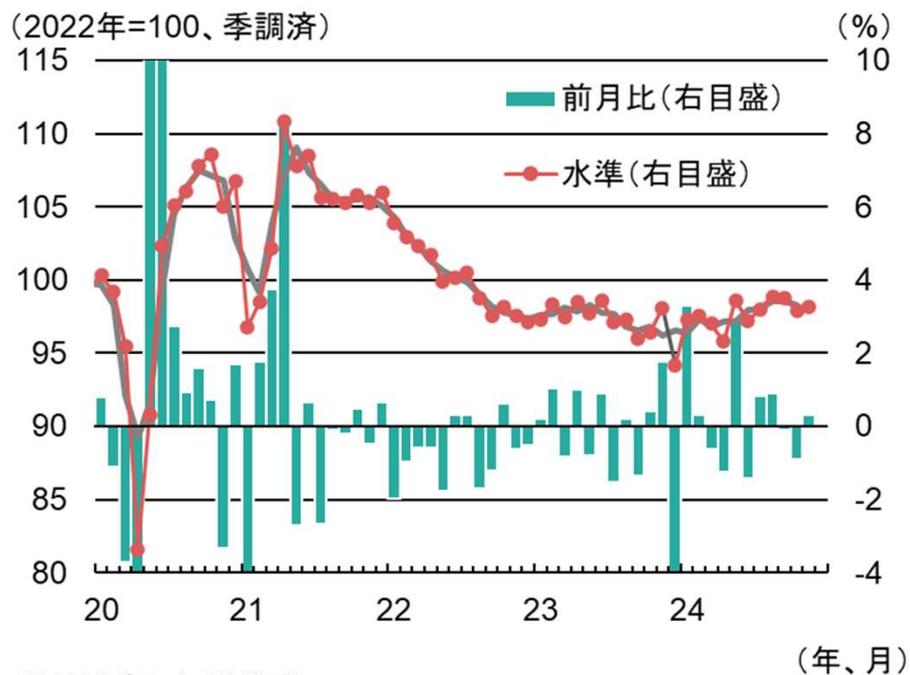


(注) 灰色線は3カ月移動平均
(出所) ONS

英国景気概況③ 消費は足踏みしている

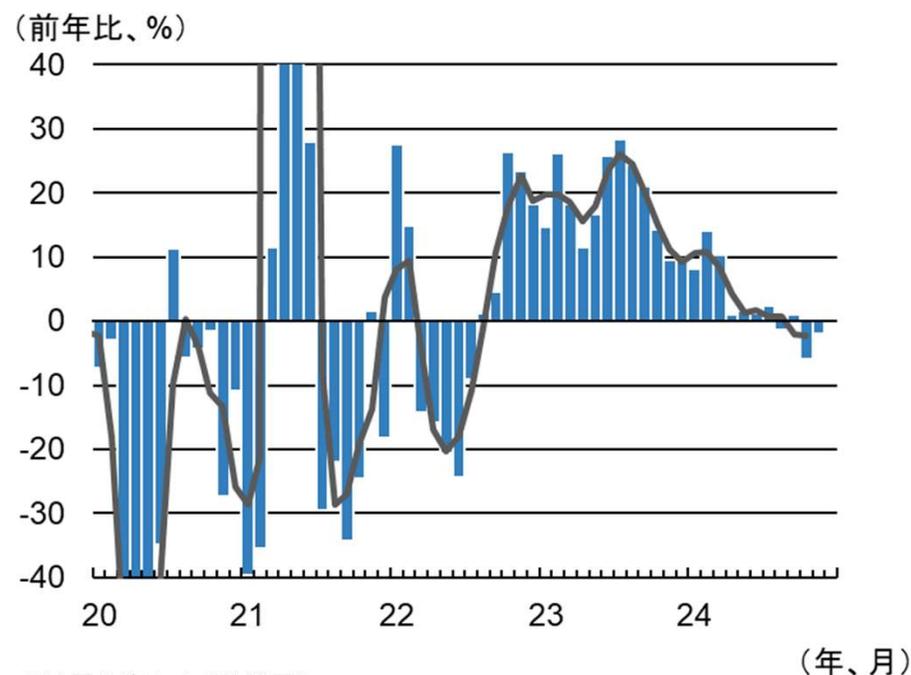
英国の10月の小売数量(除く石油)は前月比+0.3%と3カ月ぶりに増加したが、均した動きは横ばい。一方で、11月の新車販売台数(乗用車)は前年比▲1.9%と2カ月連続で前年割れとなり、回復の動きは一巡した。新車市場の規模は年率で190万台後半レベル。

小売数量



(注) 灰色線は3カ月移動平均
(出所) ONS

新車販売台数(乗用車)

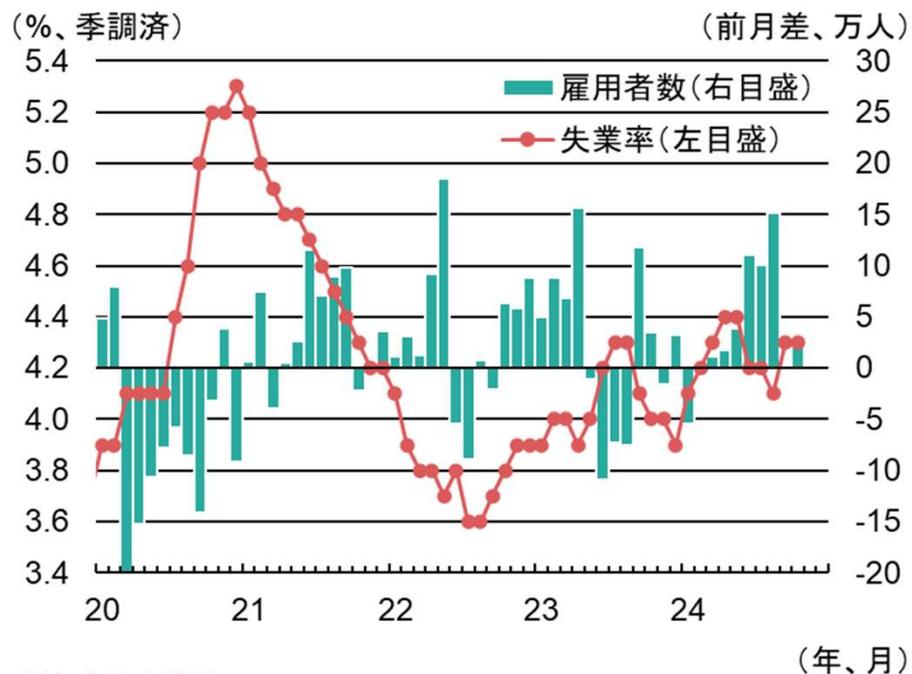


(注) 灰色線は3カ月移動平均
(出所) 英国自動車工業会(SMMT)

英国景気概況④ 雇用は改善が足踏み

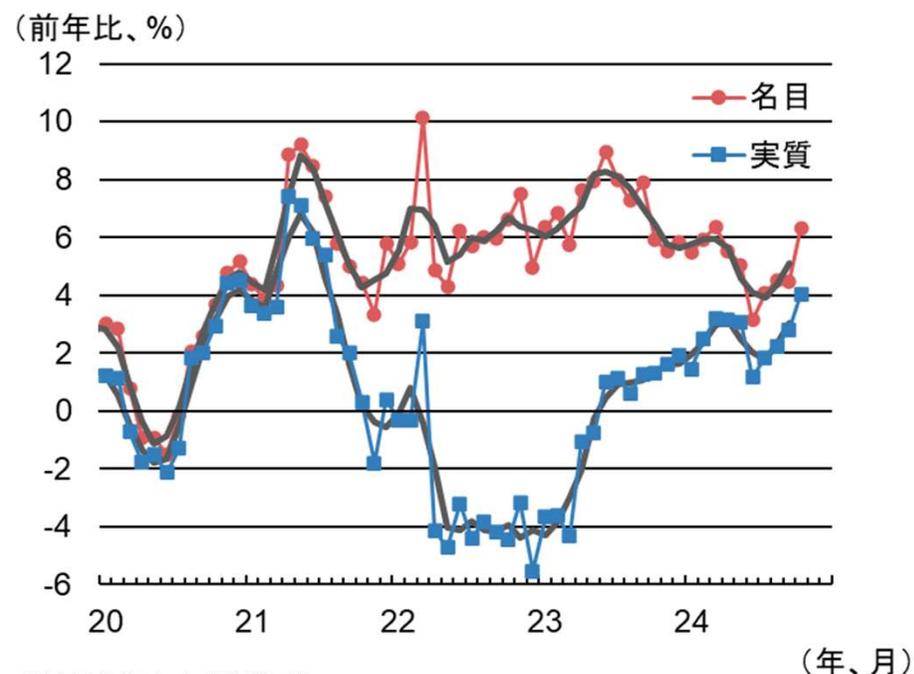
英国の10月の雇用統計は、失業率(8-10月期平均)が4.3%と2カ月連続で同じ水準となった。一方で、雇用者数は前月差2.1万人増と9月(同0.1万人増)よりプラス幅が拡大したものの、雇用の回復力は弱い。他方で賃金の動きは、名目ベースだと前年比+6%台まで増勢が加速し、また消費者物価で実質化した実質ベースでも同+4%台まで増勢が加速した。

失業率



(注)3カ月の平均値
(出所)ONS

平均賃金(週給)

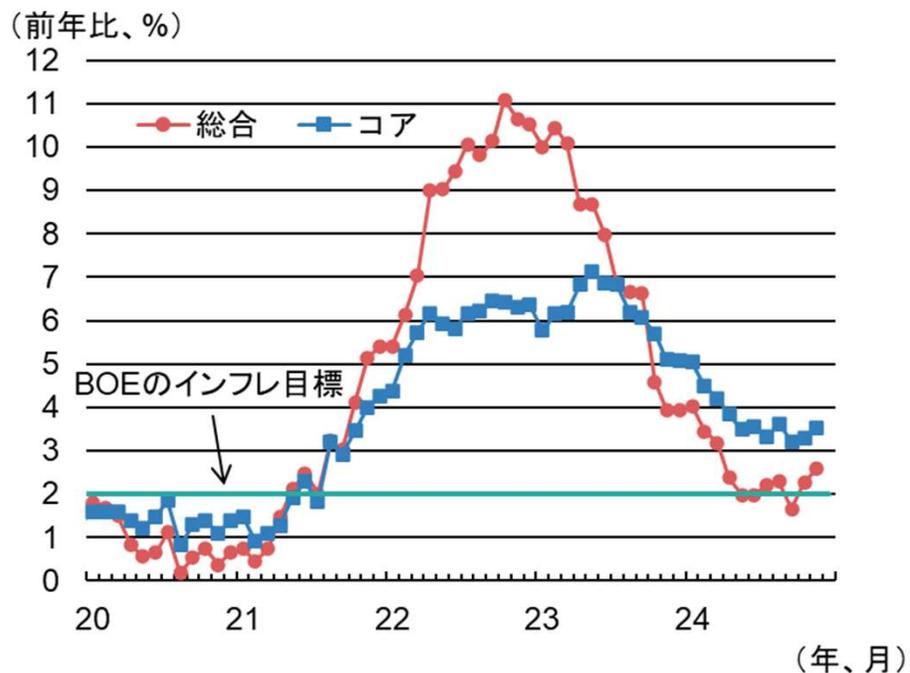


(注)灰色線は3カ月移動平均
(出所)ONS

英国景気概況⑤ インフレは加速している

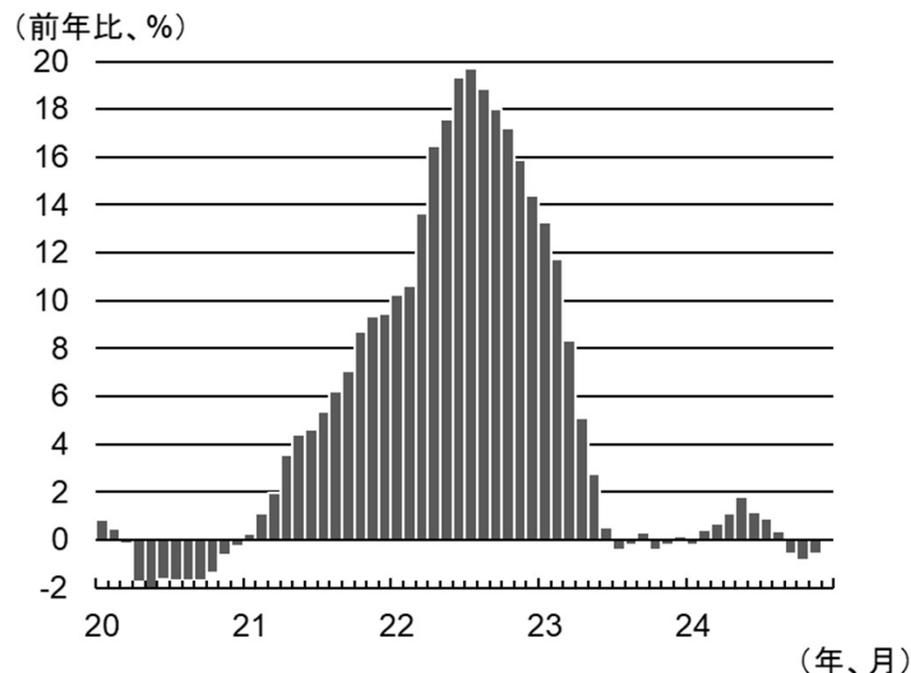
英国の11月の消費者物価は、総合ベースが前年比+2.6%と、また変動が激しい項目を除いたコアベースは同+3.5%とそれぞれ2カ月連続で上昇幅が拡大したため、インフレは加速していると判断される。他方で、消費者物価の先行指標となる生産者物価(産出ベース)は、同月時点で同▲0.6%と3カ月連続で前年割れとなった。

消費者物価



(出所)ONS

生産者物価

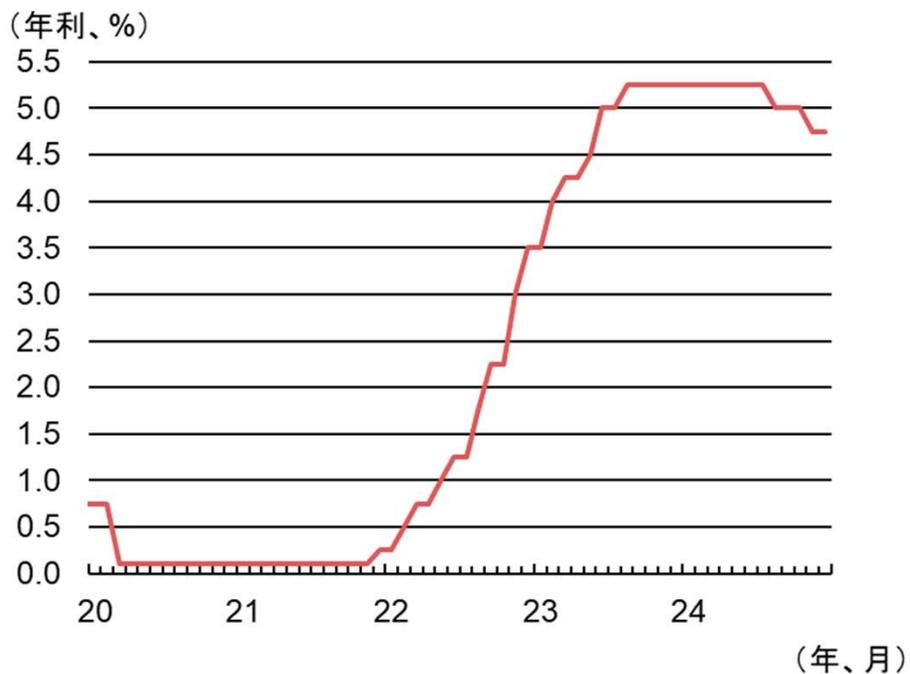


(出所)ONS

英国景気概況⑥ BOEは12月委員会で利下げを見送る

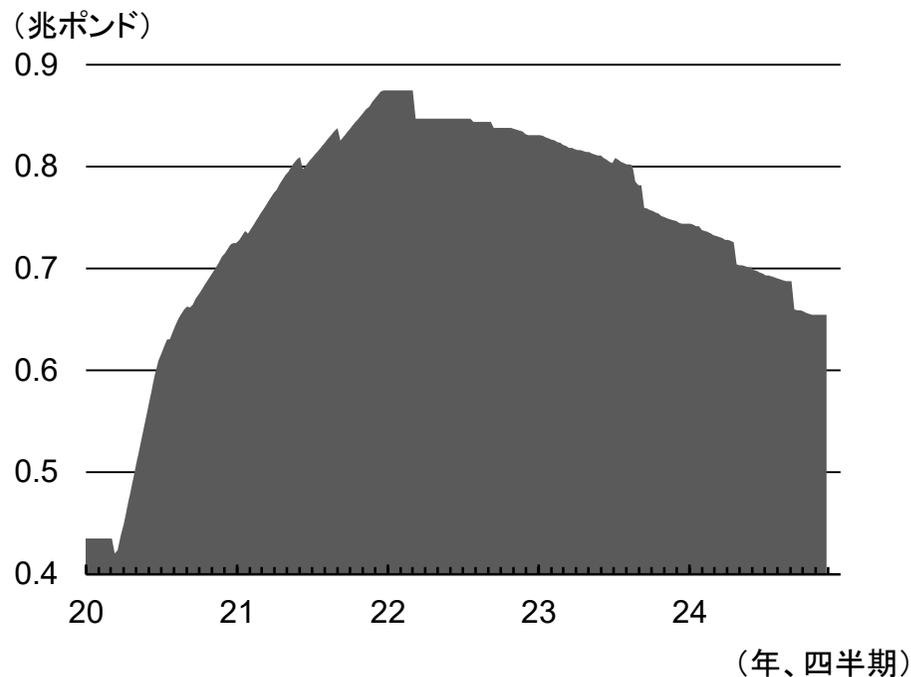
イングランド銀行(BOE)は12月18日に金融政策委員会(MPC)を開催し、政策金利(バンクレート)を年4.75%に据え置いた。インフレが加速していることが主な理由。BOEは今後も、労働党政権による拡張型の財政運営が物価の安定に与える影響を見極めながら、追加利下げを慎重に模索すると考えられる。次回のMPCは2月6日の予定。

政策金利(バンクレート)



(出所)イングランド銀行(BOE)

BOEの国債保有高



(出所)BOE

英国景気概況⑦ 金利は上昇、株価は下落

12月の英国の長期金利は上昇した。米金利上昇の流れがユーロ圏各国の長期金利を上昇させた。一方で、同月の株価は下落した。トランプ新大統領による経済政策への不透明感が相場を下押しした。

長短金利(10年債と3カ月債)



(出所)BOE

株価(FT30指数)

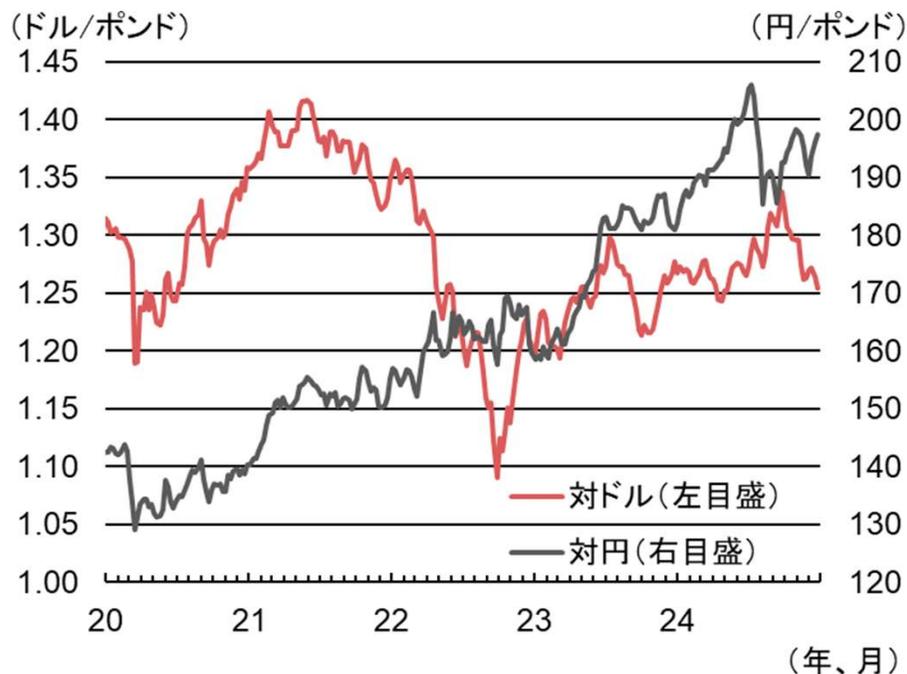


(出所)Financial Times

英国景気概況⑧ ポンドは対ドルで下落、対円で上昇

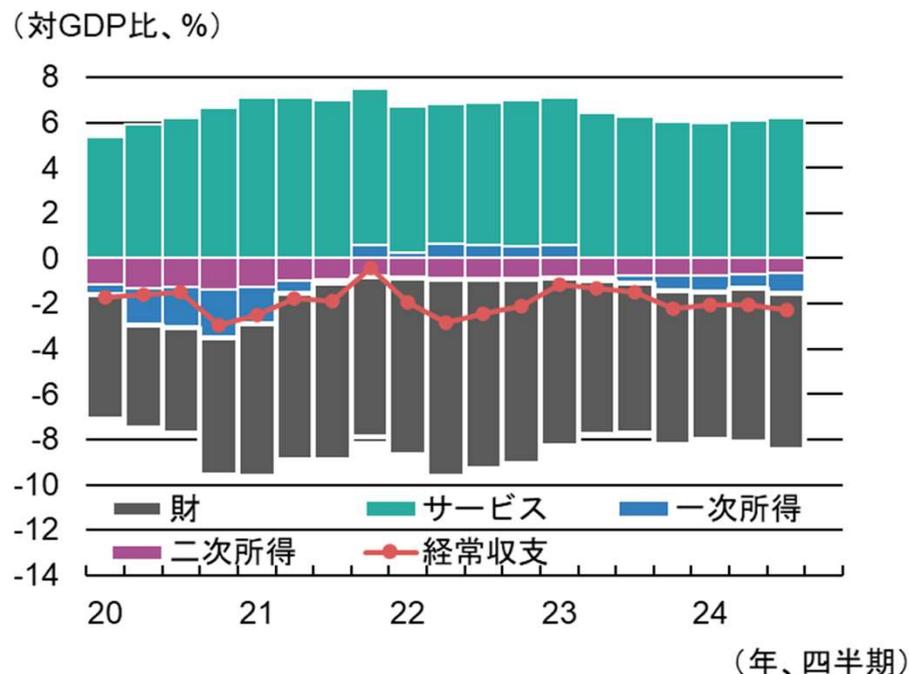
12月のポンド相場は対ドルで下落、対円で上昇。対ドルでは、米国の追加利下げ観測の後退や米国の通商政策に対する不透明感から、ポンド安ドル高が進んだ。一方で対円では、日銀が追加利上げを見送ったためポンド高円安となった。経常収支は赤字が緩やかに拡大しており、実需面からのポンド買い圧力が徐々に弱まっている。

ポンド相場



(出所)BOE

経常収支



(出所)BOE、ONS

ご利用に際して

- 本資料は、執筆時点で信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客さまの決定、行為、およびその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客さまご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず、出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。

(お問い合わせ)

調査・開発本部 調査部 土田陽介

TEL: 03-6733-1628 E-mail: chosa-report@murc.jp

〒105-8501

東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー